

平成十一年度 仏教文化研究所活動報告

〔第一回運営委員会〕

平成十一年四月八日（木）午後二時〇〇分～

本館二階 第四会議室

平成十一年度 事業計画について

研究会の開催について

各所員の役割分担について

日本仏教教育学会研究大会開催の協力

平成十一年度 予算について

平成十一年度 研究員の委嘱について

佐藤達全氏、佐々昌樹氏

平成十一年度 公開講演会の実施について

その他 仏教専修科について

〔第二回運営委員会〕

平成十一年五月二十七日（木）午後四時三十分～

六号館二階 仏教文化研究所共同研究室

公開講演会の件 講師「江島恵教先生」急逝のため講師を「高崎直道先生」に変更
科学研究費の件 「中世都市・鎌倉における寺院跡・墳墓及び仏教遺跡の総合研究」
仏教文化研究所規程の件（鶴見大学女子短期大学部↓鶴見大学短期大学部）その他
〔公開講演会〕

平成十一年六月十二日（土）午後二時〇〇分

大学会館地下一階メインホール

講演題 — 仏教の知慧 —

講師 高崎直道先生（仏教文化研究所長）

〔第三回運営委員会〕

平成十一年七月二十九日（木）午後四時〇〇分

六号館二階 仏教文化研究所共同研究室

科学研究費の件（継続）

紀要第五号について 公開講演会、関根主任、小林所員、尾崎所員

十月研究会の予定 十月二十八日（木）担当 大三輪龍彦所員

その他 日本仏教教育学会学術大会

〔第一回研究会〕

平成十一年七月二十九日（木）午後四時三十分

六号館二階 仏教文化研究所共同研究室

担当者 関根透主任

研究題 『看病用心鈔』

主な内容

鎌倉時代の臨終行儀書と言われる『看病用心鈔』（伝・然阿良忠作）には、現代のターミナル・ケアに関する叡智が満載されている。医療には利害を越えた親密な信頼関係が必要であるが、そうした仏と僧、親と子のような人間関係の重要性が『看病用心鈔』において説かれている。また、「療治灸治ノコトハ、コレ命ヲノフル事ナラス。タタ病苦ヲノソクハカリナリ」と延命治療へ疑問をなげかけたりし、かなり具体的な記述が多く、現代医療への知恵を提供している。

〔研究調査旅行〕

平成十一年九月三日（金）～九月五日（日）

丈六寺、井戸寺、城満寺、志度寺、屋島寺、善通寺

高崎直道所長、納富常天所員、関根透主任、石田千尋所員、矢島道彦所員、尾崎正善所員

〔研究調査旅行〕

平成十一年九月十三日（月）～九月十四日（火）

鏝阿寺、樺崎寺跡、長林寺、足利学校

関根透主任、小林恭治所員、矢島道彦所員

〔研究調査旅行〕

平成十一年十一月二十一日（日）～十一月二十三日（水）

坊津（鑑真和尚上陸地）、誓願寺、聖福寺、承天寺

高崎直道所長、納富常天所員、関根透主任、石田千尋所員、小林恭治所員

〔第四回運営委員会〕

平成十一年十一月二十五日（木）午後四時三十分～午後五時三十分

六号館二階 仏教文化研究所共同研究室

科学研究費について

仏教文化研究所予算について

日本仏教教育学会第八回学术大会について

参加者として 研究員の佐藤達全先生と佐々昌樹先生が出席

〔第二回研究会〕

平成十一年十一月二十五日（木）午後五時三十分～

六号館二階 仏教文化研究所共同研究室

担当者 大三輪龍彦所員

研究題 関東形式宝篋印塔の成立

主な内容

関西形式の宝篋印塔が、西大寺系律宗と共に関東に伝播して、関東形式を成立させたが、それに大きく関与したのが、大蔵安氏の率いる工人集団の石工達であった。鎌倉を中心に活躍したそれら石工達の系譜を明らかにした。

〔日本仏教教育学会・第八回学術大会〕

平成十一年十二月五日（土）午前九時〇〇分～午後七時三十分

鶴見大学会館メインホール他

実行委員として協力、参加者六十七名

鶴見大学仏教文化研究所顧問中村 元（なかむらはじめ）先生は平成十一年十月十日（日）午前十時四十五分急性腎不全のため東京都杉並区の自宅で逝去されました。享年八十六歳。

本紀要（一五三ページ）高崎直道所長の「中村元先生を偲ぶ」を参照ください。また平成十一年十月十九日（火）朝日新聞夕刊七面に「社会背景をもとに語ったインド哲学 中村元先生の業績をしのぶ」と題し、高崎直道学長の記事が掲載されました。

研究所概要

〔所在地〕

〒二三〇―八五〇一 横浜市鶴見区鶴見二―一―三 鶴見大学内

TEL 〇四五―五八一―一〇〇一

FAX 〇四五―五七四―〇二二五

(担当事務部：文学部・事務部庶務課)

〔所長〕

高崎直道 鶴見大学学長 (印度哲学)

〔主任〕

関根透 歯学部教授 (倫理学)

〔所員〕

納富常天 鶴見大学副学長 (宗教学)

大三輪龍彦 文学部教授 (日本史)

永田勝久 文学部教授 (化学)

河野真知郎 文学部教授 (文化人類学・考古学)

石田千尋 文学部教授 (美術史)

小林恭治 文学部助教授 (日本語)

尾崎正善 文学部講師 (宗教学)

中田直道 短期大学部教授 (哲学)

矢島道彦 短期大学部助教授 (宗教学)

〔研究員〕

佐藤 昌樹
佐藤 昌樹
佐藤 昌樹
佐藤 昌樹

鶴見大学仏教文化研究所規程

(設置)

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(目的)

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

(研究内容等)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行なう。

- 一 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究などの基本的研究
- 二 鶴見大学及び鶴見大学短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究
- 三 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究
- 四 研究会、講演会及び公開講座等の開催
- 五 所員の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行
- 六 その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

(研究部門)

第四条 研究所に、次の2研究部門を置く。

一 仏教学研究部門

二 仏教教育研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(所員)

第六条 研究所の教員は、専任のほか、鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員の中から所長が委嘱する。

二 研究所の職員(教員を除く。以下この項において同じ。)は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(研究員)

第七条 研究員は、鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員以外の者から、所長が委嘱する。

二 研究員の任期は一年とし、更新することができる。

(顧問)

第八条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(運営委員会)

第九条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第一〇条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他をもってこれに充てる。
(規程の改廃)

第十一条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、行なうものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

平成十一年四月一日一部改正

仏教文化研究所平成十年度購入資料一覽

- | | | | |
|-----|-----------------|---------|-------|
| 一、 | 異体字研究資料集成 | 雄山閣出版 | 全二十冊 |
| 二、 | 鎌倉時代語研究 | 武蔵野書院 | 全二十一冊 |
| 三、 | 京都妙蓮寺蔵『松尾社一切経』 | 調査報告書 | 一冊 |
| 四、 | 正法眼蔵全講 | 大法輪閣 | 全二十四冊 |
| 五、 | 神葬祭大事典 | 戎光祥出版 | 一冊 |
| 六、 | 神道史研究 | 臨川書店 | 全十八冊 |
| 七、 | 神仏信仰事典シリーズ一、五 | 戎光祥出版 | 二冊 |
| 八、 | 親鸞大系 | 法蔵館 | 全二十五冊 |
| 九、 | 中世の都市と非人 | 法蔵館 | 一冊 |
| 十、 | 天台声明大成 | 金聲堂 | 一冊 |
| 十一、 | 日本禅宗史論集 下之一、下之二 | 思文閣出版 | 二冊 |
| 十二、 | 日本中世の禅宗と社会 | 吉川弘文館 | 一冊 |
| 十三、 | 本化聖典大字林 | 国書刊行会 | 全三冊 |
| 十四、 | 梵蔵漢和四訳対校翻訳名義大集 | 本編・梵蔵索引 | 二冊 |
| 十五、 | 宮坂宥勝著作集 | 法蔵館 | 全六冊 |
| | | 臨川書店 | |

- 十六、 BDK English Tripiṭaka 104-2, 25-2・25-3 (英訳大蔵經) 二冊
- 十七、 Pali Text Society. Text series 他 全七冊
- 十八、 大宝広博楼閣善住秘密陀羅尼經 全三卷
- 十九、 永平正法眼蔵蒐書大成 大修館書店 全二十五卷・別卷・別冊
- 二十、 可睡斎史料集 思文閣出版 全五卷
- 二十一、 基本典籍叢刊 禅文化研究所 全十五冊
- 二十二、 黒田俊雄著作集 法蔵館 全八卷
- 二十三、 高山寺資料叢書 東京大学出版会 全十七卷・別卷
- 二十四、 興福寺典籍文書目録 法蔵館 全二卷
- 二十五、 国書総目録 岩波書店 全八卷・索引
- 二十六、 国訳大蔵經 第一書房 経部十四卷・論部十五卷・付録二卷
- 二十七、 五山禅僧伝記集成 講談社 一冊
- 二十八、 古辞書音義集成 汲古書院 二十一冊
- 二十九、 古典籍総合目録 岩波書店 全三卷
- 三十、 新編相模国風土記稿 雄山閣出版 全六卷・索引編
- 三十一、 諸宗末寺帳 (大日本近世史料) 東京大学出版会 二冊
- 三十二、 中世寺院史の研究 法蔵館 全二卷
- 三十三、 南北朝遺文 中国四国編 東京堂出版 全六卷

- | | | | |
|-------------|----------------|-------|-------|
| 三十四、南北朝遺文 | 九州編 | 東京堂出版 | 全七卷 |
| 三十五、寧樂遺文 | | 東京堂出版 | 全三卷 |
| 三十六、仏教考古学論攷 | | 思文閣出版 | 全六卷 |
| 三十七、平安遺文 | 金石文編・題跋編・索引編上下 | 東京堂出版 | 十五冊 |
| 三十八、民衆宗教史叢書 | | 雄山閣出版 | 全三十一卷 |